

## 分科会 2 「テーマ・分野ごとの防災ボランティア活動」

ファシリテーター 近藤 吉輝 氏（呉市社会福祉協議会）

### 近藤

それでは、分科会 2 を開催していきたいと思います。自己紹介は、顔の分かったメンバーなので割愛させていただきます。

災害ボランティアセンターの立ち上げ、運営に際しては、協働が最も重要なコンセプトであり、それとともに被災者中心、地元中心に運営されていくことを念頭に置くことが大切であるということは、繰り返し確認されています。被災地・被災者には地域性があることを考慮しながら。また、災害時の支援活動は、日常が凝縮されたような状況での活動となるので、多様な機関や人との協働・協力関係を求められることが多いわけです。こういったことは緊急時に突然できるようになるのではなく、当然日常における地域福祉、ボランティアコーディネートの実践、地域における人間関係の形成、アンテナ張り、地域資源の情報収集などがあってこそ可能になるといったことも確認されています。つまり、災害時の共助の仕組みづくりは、平時の共助の仕組みに大きく関係しているということです。

資料 4 の 3 ページにある参考資料は、これまで検討会で協議されてきた「防災ボランティア活動に関する論点集」から抜粋したものです。論点集ではボランティア活動、被災地域、災害ボランティアセンターといった分野ごとにまとめられておりましたが、この資料はそれらの分野を横断して連携・協働がある意味できていない場面を必要最小限で抜粋したものです。

午前中の全体会でも、テーマ型組織とのネットワークを意識しなければならないという提案が出ていましたので、この分科会では、そういったものを踏まえて、改めてテーマ・分野ごとの組織の活動、連携を考えていきたいと思います。本日は委員お一人お一人の発言をしっかり受け止めたいたいという思いがありますので、付箋紙を使ったワークをしたいと思います。このワークには、次の検討会につながるような新たな切り口を見いだしたいという思いが事務局から込められています。

基本的に連携している例や協働している例は全国の被災地の中で数多くあるわけですが、実際に情報としてまとめられていないというところも、この分科会が設定された一つの理由です。ですから、今日は皆さま方が実際に知り得ていることを発表いただき、テーマ・分野で区切って情報を整理していきたいと思います。

最初に福祉の分野を切り口としてワークを進めていきたいと思っています。子どもの関係を例にとってみますが、通常、子育て団体は災害や防災などと名乗っていないところの方が多いのですが、災害ボランティアセンターと協働することによって、被災者支援としての託児が開始されたという話を皆さんも聞いたことがあると思います。このように、普段は防災と名乗っていない団体でも、手の組み方によっては災害ボランティアセンターの活動として当然協働できるというところを今回は洗い出していきたいと思っています。お手元の付箋紙に、まずは福祉分野の取り組みという切り口で、皆さま方のご意見をお書きいただきたい。

## ○議事の進め方について

### 澤野

運営の話ですが、三つのテーマを3時までにまとめ上げることは、時間的に可能でしょうか。

### 近藤

この分科会に求められているところは、福祉分野の切り口からの考察、そしてまちづくり分野の切り口、最後に実際に災害時の地域内外を視野に入れた広域連携です。お時間のことも考慮し、構成しているのですが。

### 澤野

趣旨は分かったのですが、時間短縮の意味で、三つ全部書いてはいけませんか。まちづくりも福祉も全部関連性があるでしょう。一個一個やると、何かまとめるだけのようなイメージがありますが、それぞれがそのテーマで思っていることを書いてまとめれば、関連性も含めて議論できると思います。当然、福祉分野とまちづくりは関係が深いですし、地域内外の連携を視野に入れた平時からの広域的な協力関係という、まさに福祉のテーマでもあります。トータルで言うと、地域における平常時の活動のあり方や連携ということで、まとめた上で個々のテーマを議論するのが妥当ではないでしょうか。

### 近藤

ありがとうございます。皆さん、いかがでしょうか。

### 蓮本

もう1点、災害ボランティアセンターと連携を取っている例ということですが、そこには取れていないこと、あるいは、今それぞれ活動しているから取る必要もないのだけれど、今後視野に入れていかなければいけないというものは、入れないのですか。

### 近藤

まず、これまで実践されていたこと、期待される取り組みを書き出すという形で設定しています。「連携を取る必要もないけれど」というのは、具体的に言うとどのような活動になりますか。

### 蓮本

今はそれぞれの組織内でやっているけれどという意味です。例えば透析患者などは皆さんそのネットワークの中で全部やっているし、ほかにも移送の関係で全く災害ボランティアセンターとは関係なくやっているけれど、本来関係なくていいのかという部分もあるわけです。あるいは、過去にも実際には災害ボランティアセンターがやっているわけではなく、そのスタッフがやっているというものなどもあり

ますが、それはどう評価していいのでしょうか。

### 岡野谷

災害ボランティアセンターが立ち上がった時、そこに登録して活動するグループもありますが、一方で元々社協に登録して活動しているグループ、例えば移送サービスなどは、すでに現状でお客さん（利用者）が決まっているわけですから、災害が起こってもその方たちのために動くことになります。彼らが他の新たな人たちまで移できるのかというと、中々難しい面もあると思います。ですから、既存のグループを書き出すべきか、彼らに期待するより新たな移送サービスで充足すればいいのか、という点についても考えなければいけないですね。

### 近藤

軸に置くのは災害ボランティアセンターなので、イコール通常の社協活動ではない視点でお願いします。

### 澤野

せっかくいろいろ準備してきたのにいろいろ言うのは申し訳ないのですが、かなり専門性が限られる分野のテーマなので、例えば福祉というと、村野さんのような人と日常的にやっていない人間とでは全然違ってきます。このテーマならばそれを専門的にやっている人なりが話していくというようにしないと、直接的にここに参加している人でその分野に関係のない人間にしてみると、「この分野はパス」という感じになるから、総合的にやるか、ないしは、顔なじみのメンバーだから、実際に福祉分野の組織などを挙げていただいた方が、議論が煮詰まるような気がします。

### 近藤

まずは地域にある団体の活動を新たな切り口で見つめるのがこの分科会のテーマですから、福祉の分野を1番にしていますが、少し限られた分野で話し合いを進めて、次に少し広げた方が逆に意見が出るのではないかという事務局との話し合いで順番を決めただけですので、参加されている方が一度に書き出した方が討議になると言われるのであれば、当然その方法の方がふさわしいように思います。いかがでしょうか。

### 澤野

その方が効率的なので、一緒にやりましょう。

### 加納

それから、これは実際に連携が行われていたものと期待されるものに分けて書いた方が、その後のまとめとしてはいいですね。

## 近藤

では、そのように分けて書くようにしましょう。

## 村野

福祉分野、まちづくり分野というように、それぞれ分けて書いた方がいいのですか。

## 近藤

そのようにしましょうか。3番は、どうしても広域連携という視野を広げたところが必要であるということを入れていきますので、洗い出しに関しては特に1番と2番をしっかりと出していただけたらと思います。そうすれば、恐らく自然に3番につながっていくのではないかと思います。

## 福田

例えば傾聴ボランティアがしていることは分かるのですが、テーマや分野というと、例えばお寺や教会、商店街と商店会、労働組合といった分野の人たちとの連携を私はイメージします。だから、あまり福祉というような切り口ではない。労働組合の人たちが傾聴ボランティアをしてもいいし、もしくはしている人もいるだろうし、サロン活動や美化活動をしている人たちもいるでしょう。企業もそうです。私はセクターのようなもので専門性のようなものを考えてしまうのですが、それはまた少し違うのですか。

## 近藤

多岐に渡る実践例からのテーマ・分野のワークを考えています。

## 澤野

そういう発想ならば、例えば1番で、福祉分野で具体的な活動をしている人のご意見を伺った方がいいと思います。意見ではなく具体的な実践経験を踏まえてという話になれば、ここに集まっている全員が福祉のボランティア団体の人間なわけではなく、まちづくりを熱心に行っていたメンバーという意味での専門性がないから、その経験を持った人が話して、持っていない人はパスになるでしょうから。

## 岡野谷

具体的に、付箋紙には何を書けばいいですか？。ただ「傾聴ボランティア」と書けばいいというわけではないでしょう。具体的に実施していた団体名を書くといいですか。少し例示をして戴きましたが、それ以外のもの、或いは「あればいい」と思うものを書きだすという程度でも宜しいのでしょうか。

## 近藤

進行するにあたり、生協など全国的に展開している活動を例示いただいて、それならこのようにつながるといような話を出していくことをイメージしていたところがあります。ですから、実際に書き出していただくのは、皆さま方が知っている団体がこんなアクションを起こしたということになります。

## 澤野

書いてほしいのは意見ではなく、あくまでも事例なのであれば、今いる人間で、それに関して良い事例を持っている人と言った方が早いと思います。アイデアを出せというなら付箋でいろいろとやることも可能ですが、事例を出せと言われたら、持っていない人や知らない人はそこで終わりだから、全員が書かなくても、むしろそのテーマで事例がある方をお願いすればいいと思います。単なる意見ではなく、具体例として、この分野でこれがどうしても自分の経験上必要だという意見が必要ならば、そういう経験を持っている人、ないしはそういうものを知っている人と絞った方が議論は早いと思うのですが。

## 岡野谷

山口県など実際の災害例を出して、各々行った方が「うちはこのことをしている」という風に具体的に書けば、課題も出てくるような気がします。今のままでは漠然としすぎていませんか？。

## 澤野

ふわっとして、何でも書けるし、何でも言えるというイメージで書くのもいいのですが、かなり絞りたいということなら、絞って発言させた方がいいと思います。

## 蓮本

ただ、今回の話題として何をしたいのかということがあります。事例だけ出して、こんなことをしているという話であれば、もうある程度知っているではありませんか。

## 近藤

そうですね。ですが、それを今一度、情報として整理することが、この分科会を進める上で必要だと考えています。

## 岡野谷

分科会の参考資料に載っている論点集の残る課題という方にはいかないですね。

## 近藤

論点集から協働できていない部分をご提示したのも、今お話しいただいた事例的なものを知らなかつ

たのか、地域性により反映できなかったのかと新たな整理ができるのではないかと考えたからです。論点集の中では明らかになった課題、残る課題として記載されているのですが、その課題を解消するためにということで、一步踏み込んでいきたいとも思っています。ただ、今、論点集を基にすべての会話を進めていくと時間がなくなるだろうということで、付箋紙を活用したワークを事務局としても考えています。

## 渡邊

分科会1では広域連携をテーマに話し合いをしています。広域連携の議論に出てこない部分で、テーマごとのつながりや分野ごとのつながりという切り口からこの分科会を用意しています。ですから、広域の方からもテーマ型でどのようにつながっていくかという議論も出てくるだろうし、逆にこちらの方ではもっと突っ込んで具体的に挙げていければということで、福祉の分野とまちづくりの分野を挙げているのです。事例を見ていただけだと、どうしても羅列になってしまうので。

## 岡野谷

広域という大きな分野ではなくても、一つの被災地の中で掘り下げていって、こんなテーマで活動している団体があったということを出したいということですか。

## 宇田川

資料には「今回の分科会では、地域において平時から行われているテーマ・分野ごとの組織やネットワーク等に注目し、災害ボランティアセンターや防災ボランティア団体等の連携が期待される取組について意見を行う」とありますから、具体的に現在行われているものを挙げて、それをどう災害時に有効にお互いが利用し合えるのかということ話を話し合えということで、具体的なものを挙げるという作業が最初になっているのでしょうか。

## 岡野谷

それなら、彼が言ったことで問題はないように思います。JCが弁当づくりをしているということも具体例ですから、まずは自分の知っていることをどんどん書き出していけばいいのではないのでしょうか。

## 澤野

広域連携のテーマにもれた地域の話題をみんなで議論しようということでいいのではないですか。何となくテーマが絞り切れないのです。要するに福祉もまちづくりも大きすぎて、それだけではっきり言って仕込めるでしょう。この団体がこんなことをしていると紹介するという話なら、全員に聞くこともないし。

## 加納

ただ、持っているものを皆さんで出すと、こんな団体ともつながれるという発見があるような感じはします。

**澤野**

それなら、福祉なら福祉で「こんな団体を知っている人」「はい」でパッと書いて、「より深く聞きたい人は？」と。

**岡野谷**

次から次へ、知らないものを足していった方が早くないですか。

**澤野**

でも、それをやると、結局はいろいろな団体がこんな活動をしているという話で終わってしまうでしょう。

**岡野谷**

なるほど。「こういったところも期待したい」という到達点に持っていきたいのであれば、書き出すことで、足りない点も見えてくるのではないですか。

**澤野**

率直に言うと、まちづくりの専門家が今日いるかという視点に立つと、そういう構成ではないでしょう。福祉はいますが。

**近藤**

実践例を基にして団体の名前を出していただく。そして、重ねて実践そのものを付箋紙に書き落としていただけませんか。

**澤野**

要するに実践例を付箋紙に書き落とす、実践例を知らない人は書かなくていいということで進めればいいのかではありませんか。

**近藤**

最初にお伝えしましたが、洗い出しについて実践例、団体の名前が分かるものを付箋紙にご記入いただけたらと思います。

宇田川

取りあえず団体名だけで、活動内容は書かなくていいのですか。

近藤

活動内容も知り得る範囲でご記入いただけたらと思います。

宇田川

地元レベルでも全国レベルでもいいのですか。

近藤

はい。時間は5分間に設定したいと思いますので、よろしくお願いします。

\*\*\*付箋紙への記入。書いたものをホワイトボードに張り出す\*\*\*

#### ○福祉分野を切り口とした、災害時のボランティア活動との連携が期待される取り組み

近藤

よろしいですか。本当に多種多様ですね。活動内容を書き切れていない部分もあるのですが、実際に今、実践している団体、分野を出していただきました。少し具体的に教えていただけたらというところもあるのですが、まず、渡邊さん、これはどういう分け方になっているのですか。

渡邊

福祉がテーマだったので、真ん中に福祉のテーマに沿うようなグループ、団体のつながりで並べています。福祉にかかわる看護協会や福祉の各種学校、障害者の防災にかかわる組織や、腎友会があったり、手話のサークルがあったり、主に社協や福祉のサークルなど、日ごろのつながりのある団体名が出てきています。それが中心にあるような形で、あとはマスコミや青年会議所や企業のつながり、建築業協会、建築士の協会などが出てきています。

近藤

ありがとうございます。少し具体的に教えていただきたいと思います。大きいと思われる組織から触れていきたいと思いますが、JCの絡みではどのような協働をされたのでしょうか。

弘中



途中で申し訳ないのですが、ざっと見ると、福祉どっぷりのところと、JCや建築士協会など本来は違う趣旨というか、別の専門性を持った割と大きな団体があって、もう一つは民生委員や地元の自治会など地域に根ざしたような人たち、それに付随して子育て支援団体など地域で活躍しているようなサークルの人たちがいるように見えます。少し離れて張ってあるものもありますが、大きくはいわゆる組織系（専門性の高い組織の人たち）と地域系（地域のつながりを持った人たち）という感じでしょうか。どう整理するのかわちょっとよく見えませんが、そういう分け方もあるように思います。

## 近藤

確かに組織で分けるとそのような形になると思うのですが、実際にどんなつながりを実践例として持ってきたかというところを、どの方が書いたのかは特にお名前がないものですから、ご発言いただけますか。

## 澤野

指名しないで、まず言いたい人に言わせていった方が早いでしょう。付箋紙だから思い付きもあるけれど、まずこの取り組みを言いたいという人から言わせた方がいいと思います。

## 近藤

いかがでしょうか。ご紹介いただけますか。

## 岡野谷

災害ボランティアセンターは一般に災害が発生した時に立ち上がるものですが、ここでいう日ごろの付き合いとは誰と誰の付き合いを言うのでしょうか。地域と各種団体やグループの付き合いのことでいいのでしょうか。自治会などはまさに地域で活動している訳ですが、彼らは自助・共助の部分を担当しています。外部から入るメーカーや自衛隊などはそこに初めて来るのですから、地域とのつながりは全くありません。つながりはないけれども、彼らのプロジェクトとして福祉という意味でお風呂サービスなどを実施しているわけです。理容師会や理髪師会も外から来て、被災された人々に散髪をしてあげるという形になります。そうなるこの分類は災害ボランティアセンターが立ち上がって、そこに協力に来ている人たちの分野を書いたわけですね。保健師も最初からボランティアをしようとして来ていたわけではなく、たまたま避難所で昼間ずっと寝たきりになっているおじいちゃんやおばあちゃんがいるから、声を掛け、健康管理を始めたというように、日頃からの地域との付き合いは全然ない人たちもいると思うのです。

## 澤野

このままでは付箋紙の分類方法を議論しているだけで終わってしまうから、時間も少ないことですし、みんなが思っている意見を言わせた方が早いと思います。分類をどうしようかという議論をして、分類が終わったとってその結果をみんなに見せても分からないから、私はこれを特に強調したい、言いた

いというような書いた人の意見を聞けばいいのではありませんか。

私が皮切りの話をします。私が書いた福祉分野で災害時のボランティアの連携が期待される取り組みは、熱中症対策です。今年の暑さでは500人以上の方が亡くなっていますので熱波災害とも言える状況で、これを災害ととらえるならば、もっと福祉分野と災害時のボランティア活動が連携して、熱中症対策に真剣に取り組む必要があるのではないのでしょうか。その意味では民生委員任せ、福祉ボランティア任せにはできないように思います。消防で豊中署が熱中症シェルターを設置しましたが、あれを災害ととらえるかどうかで取り組みも違うので、今後一番期待される分野の一つではないかと思いました。これは新しい分野であって、来年も500人以上を見殺しにするのかということもあるので、まさに一番福祉との連携が重要なのではないか、お年寄りで冷房もない人たちを放置するのかというイメージで、何も雨降りだけが災害ではないということを書きました。

## 近藤

ほかにいかがですか。建築士協会、建築業協会を書かれた方は、どういったつながりがありますか。

## 村野

建築士協会は地震の後に建物の診断、応急危険度判定をするのですが、前もった取り組みとして講習会をしていただいたり、被災地ではその後の建物の状況の説明を被災者の方々にしていただいたりしました。それから、森林組合は、現地に行くというよりも、三条水害の時に現地で床下に敷いていただく炭を送っていただきました。トラック協会は現地のトラック協会とつながっていますので、私たちが現地に入るときに道案内をしていただいたり、現地と情報をつないでいただいたり、救援物資を地元のNPOに搬送していただいたりしています。

私が書いたもので言うと、大分の場合は水質検査をしているので薬剤師会が給水車を持っていて、水害で水が駄目になった所にいち早く給水車を持って行って支援活動を行っています。また、手話は一般的なのですが、中途失聴、途中で耳が聞こえなくなった方たちは手話ができせんから、筆談、要約筆記をすることによって情報を伝えるという活動を、要約筆記のサークルが行ってくださっています。それから、柔道整復師会は、日ごろから皆さん方の体の状況を見ているから、避難所に行って体の調子を良くしていただくということで、柏崎の時もボランティアで避難所に行って活動していただいています。難病協会は、ご自身の病気が特殊なものですから、特殊なものをいち早く必要としている人たちに届けてくださる活動をしていただいています。

## 近藤

ありがとうございます。私自身、知らなかった部分、新たな発見があるのですが、皆さま方はいかがでしょうか。

## 蓮本

私は腎友会や難病協会などを書いたのですが、特殊な病気を持たれている医療系の人たちは独自に移送や薬の持ち込みをされています。きょうされんや特養などのホームも、それぞれの施設の近隣の人を送り込んでサポートをしたり、避難所に物を持って行ったりと活動をしています。その辺はあまり災害ボランティアセンターを通っていないことが多いのですが、そういうものがあります。

## 福田

先ほどの村野さんの話や今の蓮本さんの話を聞いていて思ったのですが、例えばトラック協会はトラック協会だけで何かができるわけではないですね。

## 蓮本

そういうものをトラック協会に運んでもらったこともあります。

\*\*\*福田氏がホワイトボードの前に移動して、付箋紙を並び替える\*\*\*

## 福田

だから、福祉分野といっても、福祉分野から遠い人たちは、その団体だけで何かができるわけではないということが、何となく明らかだと思います。だから、横軸に地域と広域、縦軸に専門性の有無を取って、その真ん中に誰がくるのかということが、私はテーマ別で見ていくときの肝だと思っています。その中心にくる人、あるいは団体がどこか、もしくは誰がそれを担うのかが問題なのではないでしょうか。専門性を持っているところは限られた対象者にしかサービスができませんが、他団体と連携できればもう少し広い対象者にサービスができるはずですが、そこだけでどうにかしようと思ってもなかなか広がりを持つことができない。でも、縦軸・横軸の真ん中の人たちとうまくつながると、いろいろなことができる可能性が十分あるのではないかと思います。もしかしたら、真ん中に来るのは社協かもしれませんが。

## 弘中

災害ボランティアセンターが一つのつながる場ですね。つなぐ人がいるかどうかはちょっと別問題ですが、少なくともつながる可能性のある場が災害ボランティアセンターです。

私も昨年「につせいかん」とは何だろうと思っていたのですが、直接その方と話をしたら「日本精神科看護技術協会です」と言われて、しかも地元の宇部市の人で、すごく驚いたことがありました。

## 福田

私は労働組合や生協、教会やお寺を書きました。そのような団体は全部自分たちで完結できちゃうくらいの力を持っています。しかし一方で、そのような団体は、自分たち団体の会員や組合員、または檀家や信徒というように、いわゆるメンバーシップというところをなかなか超えられないのが現実だと思っています。災害時に、きちんとメンバーシップでの支援をした上で、さらにもう一步踏み込んで社

会的な活動に取り組んでいくときには、必ず他の社会団体と手を組みながらやっていくようにした方が、社会的にはもちろんのこと、その団体にとっても、より良い活動になると考えています。それは別に災害時だけではありませんが。ただ、そのような力を持っている団体と連携する時は、それゆえにいろいろな意味でなかなか難しいと思います。団体の色が出過ぎてしまったり、自分たちの理屈だけで判断してしまうようなこともあるので、その意味では、広域団体と地域の団体、専門性の高い団体と低い団体をうまくつなげられるような人が、間に入って調整することが必要だと思います。

災害ボランティアという意味では、その真ん中にくるのは、災害ボランティアセンターかもしれませんが。ただし、ここで重要なのが、災害が起こったときにこんな構図がいきなりできるわけではないということではないでしょうか。可能な限り、災害が起こる前に中心にくる人・団体が誰かを考えておくことが必要だと思います。先ほど、もしかしたら真ん中には社協がくるかもしれないと言ったのですが、それは、災害前を意識しての発言です。もちろん、社協だけではなく、いろいろな団体をつなげる肝になる団体として日本の社会の中に何があるか考えていくことはとても重要だと思います。

付箋紙を張る前は、事例を挙げていくと専門性の高い・低い、地域・広域で偏るのではないかと思っていました。結構まんべんなく挙げられているので、さすがにすごいと思いました。私の仕分けが違うという意見もあるのかもしれませんが。

## ○災害時の地域内外の連携を視野に入れた平時からの広域的な協力関係づくりなど

### 岡野谷

表はまとまっていると思います。活用方法を考えるとよいと思います。災害ボランティアセンター自体も常設の所はほとんどありません。ですから、本日の具体的な事例を地方や地域に落とし込んでいくという視点から各地域に提示していく。つまり「こんなことをやったところがある」「こんな連携も結構できるのではないか」という資料として渡していくとよいと思います。

もう一つは、トラック協会などは災害ボランティアセンターに登録するわけではありません。ですから、県や市町に登録している人たちとどう一緒に活動するかも考えていかなければいけないと思います。

### 村野

それは多分、別だと思います。トラック協会が県や行政と連携しているときは、協定を結んでいます。大分県の場合で、ボランティア活動としてトラックと人を出してください、燃料費は何とかこちらで捻出しますから、人と物資を出してくださいという形にしているのです。登録した中でやろうと思うと絶対に難しいので、また全然別のところできちんと話し合いを前もってしておかなければいけません。(お仕事とボランティア活動は別だということ)

### 福田

それは生協なども一緒です。

## 岡野谷

なるほど。ただ、過去にはトラック協会も現場には来たが人材が余っていて、ボランティアセンターに「何かできるか」と聞きに来ることもありました。また、山口県の看護協会も最初はそうだったので。昨年の水害の時、「被災者のために何かできませんか」と県に言ったのですが、「県としては特に必要な役割はありません」ということでした。一方で災害ボランティアセンターからは「救護関係の人がほしい」と県に要望をしていました。そこで県は看護協会に「ボランティアセンターに行っておいでください」という振り分けをしたのです。そうした受け皿を広く作ってあげたいと思います。

## 澤野

私は今、福田さんが言ったことが議論にとっては一番重要だと思って聞いていました。結局、広域連携も含めて連携とは呼び掛けでしょう。では災害ボランティア活動と呼び掛ける組織が地域にあるのか、そこに本当にその力があるのか、連携、連携といっても誰が呼び掛けるのかということで、主体の問題抜きにこの議論はないと思います。実際、各地域で何が悩みなのかというと、呼び掛ける主体たる災害ボランティア活動の核がないことです。それを社協にしると言っても、社協だって別に災害ボランティアの専門団体ではありませんから、荷が重いと逃げるところが出てきても仕方ありません。

その意味で、連携、連携と言うけれど、誰がやるのか。災害ボランティアセンターは少なくとも臨時のセンターで、災害時になってからできるものであって、常設のボランティアセンターがある地域もありますけれども、連携、連携と言いながら、実際のところ、JCなどの団体に誰が連携と呼び掛けるのでしょうか。そこを抜きにしては、結局、連携は始まりません。地域に入ると連携の主体が見えず、仮に名前があったとしても、その団体に力があるのか、ないしは地域に根があるのかという問題が出てきます。要するに団体の実力です。だから、連携は日常活動の延長線上にあり、その地域にある団体の力によって幅も大きく変わるという面で考えるのか、そうではなく、災害時にボランティアセンターが立ち上がったときにどう連携するのかという話なのか、そういうことを含めてやらないと、分からないのではないのでしょうか。

ボランティアセンターが連携の仕事をするのなら、日ごろから誰が準備するのかという話になります。だから、多分この議論の核は誰が呼び掛けるのかで、これは地域に入れば必ず聞かれます。ボランティア連絡会を作ればいいのですが、誰がその事務局をするのか。ボランティアセンターは行政から言われたら社協がやるというかもしれませんが、どうするのが見えないと駄目だという印象があるのです。障害者団体だって、いきなり呼び掛けても、日ごろの活動がなければ無理でしょう。

## 福田

私のイメージでは、市社協は地域に近く、専門性の高いところと低いところをうまくつなげられる、例えば地元の町内会と特別支援学校をつなげるとか、地元の高校や小学校と特養や民生委員をつなげるといったところは市社協が得意で、県社協はもう少し広域になるような気がします。そんなに広域なところは知らないのですが、県域ぐらいなら幾つか、例えば県立の看護学校なら分かる、難病協会の県支部なら分かるという形だと思うのです。ところが、全社協になると一気に広域の方へ行ってしまって、

例えば経団連と話ができる、中央共同募金会とやり取りするという形になってしまっているような気がして、本当はその真ん中に、組織なのか人なのかは分からないのですが、そこをうまくつなげていけるような場づくりを、災害が起こる前にできればとてもいいのではないかと思います。

### 澤野

静岡県なら小野田さんがその辺にいるわけでしょう。呼び掛ける主体があるから、ああいう活動ができるわけです。各地域で悩んでいるのは、それを社協がやるのか、どこがやるのかというところで、真ん中に社協を置こうというと、やはり彼らは逃げるでしょう。

### 宇田川

ボランティア協会も、社協の中にあるところと単独団体としてあるところがあるので。

### 福田

例えば森林協会やトラック協会は一見すると福祉分野とつながらないと考えてしまうのですが、それをどうやってつなげるかは知恵だと思います。村野さんはそういう知恵をすごく持っていらっしゃるのではないのでしょうか。例えば特養とトラック協会をどうやってつなげるのかということで、多分これまでの災害の中でも、例えば県社協にトラック協会が何かできることがあればと言ってきて、一方で例えば腎友会が車はあるのだけれども運転手がいなくて相談してきたときに、トラック協会と腎友会をうまくつなげるという発想がなければ、腎友会の人には「もう仕方がない」、トラック協会の人には「取りあえずボラセンにボランティアとして登録してください」というふうになっていたケースが少なからずあると思うのです。

### 岡野谷

その通りですね。だからこそ実際に発災したときに、それらの団体とどう連携するかを中心になる団体が考えていければいいわけですね。

### 福田

そうです。でも、災害が起こった後だと混乱してしまうので、発想がつながらない場合もあるわけです。

### 岡野谷

どんどん登録はしてもらっているけれど、そのままになってしまっている。そこで、実際に発災したときにどうするかを考えておかないといけない。

## 福田

だから、先ほど澤野さんがおっしゃったように、災害が起こる前に、いかにこのテーブルを作っておくかというところがとても重要なのだと思います。

## 宇田川

その組み合わせゲームのようなことができれば面白いと思います。いろいろなカードを出しておいて、どれとどれが組み合わせられるかということで。ただ、その間にもう一つ自分で考えなければいけないカードを作らなければいけません。今、福田さんが例に出したように、腎友会とトラックをどうつなげるかということで、その間のキーワードはその人が作って、3枚そろったら出来上がりというような頭の体操が、私たちにとって必要なのだと思います。それは、全国の情報が集まるこの検討会の場でなければ多分できない作業だと思うのです。

社協の近藤さんが先ほど知らないところがあったとおっしゃっていましたが、社協はすごく知っているようなイメージがあったので、例えばどんなものか教えてください。

## 近藤

団体名は知っていますが、発災時の災害ボランティアセンターとの具体的な連携についてはイメージでしかなかったということです。例えば、弘中さんに例示いただいた団体は、私も山口県での災害に関わってみて、災害ボランティアセンターとの実際の連携のあり方を模索でき、勉強したところです。

## 弘中

広域団体や専門団体を書いていっても、地元とつなぐことを考えると、地元の自治会長や町内会長、あるいは学校など、やはり地元にあるものを書かざるを得なくなってきました。ですから、広域や連携先を考えていく中で地元の話は外せない、書きながら強く感じました。

## 澤野

そうですね。結局、何のための連携かという議論、どこを支援するのかという議論にいけば、当然、被災地の個々の人、地域のいろいろな団体を応援していくことになっていくわけで、ボランティアセンターを応援するために連携しようという議論ではありません。連携することによって、地域にとってどうなのか、例えば福祉の専門家が連携してくれば、地域ではなかなか面倒が見られないような人たちに専門的ケアがすぐ行き届くといった視点だろうと思います。連携のための連携ではなく、連携しなければできないからこそ連携するのですから、その意味では単純なパズルゲームではありません。必要性があつての連携ですから、当然、福祉の必要性が高ければ社協を抜きにした連携はないと思います。

ただ、まちづくりを中心に書けと言われても、それは団体が違うということになります。災害時となるとまた違うものが出てくるだろうし、連携の難しさは、逆にその辺だと思います。地域とつながっていなければ、連携のしようがありませんから。

## 室崎

今までの話に関連して言うと、やはり災害時は災害ボランティアセンターの役割が非常に大きいと思います。被災者のニーズにどう応えるかという問題で、ニーズをしっかりとつかんでいる人が呼び掛けなければいけません。

例えば新潟県中越沖地震の時に、赤紙や黄紙を張られた人がボランティアに家を片付けてもらおうと思っても、入ってはならないというような間違った情報が伝えられていて、それを蓮本さんと菅さんが何とかしたいと思ったわけです。そうすると、私のところを経由したのですが、最後は建築士の協力を得ないとはいけません。そこへ呼び掛けると、気持ちよく一緒に行ってくれるような世界が出てくるのですが、それは、ニーズをボランティアセンターやボランティアの人が発見して、それを解決しようと思ったからできたことです。あるいはブルーシートを張れないので雨が降ると困るという話で、建設業界からブルーシートを手に入れたり、張るのは消防団に頼んだりいろいろするのですが、やはり災害時は、行政でもいいのですが、ニーズをしっかりとつかんでいる人がそれを満たすために必要な人を集めて、テーマごとにネットワークを作るのが一つの方法になります。

それとは別に、災害対策本部のように課題やテーマはよく分からないけれど、いざというときに連携するために、例えば民生委員のトップなどいろいろなトップが集まるような連絡協議会のようなものを作って、そこがカバーするというやり方もあると思います。その場合は行政なのか社協なのかよく分かりませんが、災害対策本部にボランティアも全部入れるべきだと私は考えています。そこでニーズを把握し、それに対応するためにどう連携するのかということが非常に重要です。

兵庫県では、日常時は基本的にテーマ別と地域別でNPOのネットワーク会議を作っています。また、今はそれぞれの地域で日常的な協働の場を作っていて、そこには災害に限らず、子供の問題など、いろいろなボランティア団体が集まっています。これは、行政と社協と、神戸の場合は経験豊かなNPOがあるので、例えば神戸の東ならコミュニティ・サポートセンター神戸（CS神戸）にお願いして、CS神戸がほかの社協と連携して地域の協働会議をたくさん作って、普段から一緒にやっています。それとは別に、今度はテーマ別で、例えば企業と連携することもあります。この前もコカ・コーラボトラーズなどを呼んで、ボランティア団体と一緒に災害時の飲み物の供給について議論しました。ですから、日常的な関係を誰が作るのかという話はなかなか難しいのですが、兵庫県の場合はボランティアセンターのようなところが行政と連携してそのような場を作っています。

今、議論しているのはそういう場がないときに誰がやるのかという話ですが、平常時は各地域によると思います。社協が頑張る所もあると思いますが、兵庫県はNPOが結構大きな役割を果たしています。実際に兵庫県の場合、災害専門のボランティア団体はほとんどないのです。村井さんのところぐらいで、あとはCS神戸も、黒田さんの阪神高齢者・障害者支援ネットワークも、日常生活のサポートにシフトしています。ですから、そういう人たちが日常時は声を掛けて連携を作っているという形です。

## 近藤



ありがとうございます。兵庫県のお話をいただきましたが、福田さん、関東の方ではどうですか。

## 福田

ありません。加納さんを前にして言うのは申し訳ないのですが、少なくとも東京にはないと思います。

室崎先生の発言の中で重要なのは、行政という言葉だと思います。例えば真ん中に入れる場ができるとしたら、恐らく一番手っ取り早いのは行政だと私は思っています。ただ、行政がそれを運営していくことになってしまうと、それだけでは多分足りないことが明らかなので、行政と、例えば社協なのか、NPOなのか、市民団体なのかは分かりませんが、協働でその場を作っていくことが必要なのではないのでしょうか。ですから、室崎先生の兵庫県のケースを聞いていてなるほどと思ったのですが、日常的に活動している団体が入って、兵庫県のボランティアプラザと行政とが一緒になってやっていくというような形が一番いいように思います。

## 澤野

確かに、行政というところとすぐ協定で、みんな協定を結んでいくようなところがあると思います。

## 福田

それだけになってしまうのです。だけとは言いませんが、なかなか難しいと思います。

## 岡野谷

行政との関係で一例をご紹介します。JFAS は東京都北区にあるのですが、北区では昨年、遅ればせながら行政と社協とボランティアプラザが三者協定を結びました。行政はまだ一回も会議に出てきませんが、何か形を出したら、そこから参加するとは言っています。現在、災害ボランティアセンターの立ち上げマニュアルなどを作っている状況ですが、まさに今、区内のボランティア団体がどう連携していくのかを模索している最中です。まだまだ初めの一歩なのですが、まずは各地域で、三者が協議会という形で出会い、日ごろの関係をうまく作っていければ、そのうちに、行政から社協やボランティアセンターとの協定を結ぼうかと乗ってくれるかもしれません。そうすれば区政をうまく活用もしていけると思います。

## 澤野

ふと思ったのですが、この間、行政がものすごく力を入れてやっている災害時の要援護者の見守りの話はほとんど出ませんね。名簿リストを作って、すごく力を入れたでしょう。

## 蓮本

今はどちらかというと発災してからの話になっているので。見守りは発災までですから。

**澤野**

要するに要援護者をいかに守るかということで、あれはあれで連携ですよ。

**岡野谷**

気が付かれたならば、連携項目にどんどん入れていけばいいのではありませんか。

**澤野**

いや、別にそうではなくて、行政があれほど熱心にやっているのに、名簿だけに終わっているのかなとふと思ったので。

**岡野谷**

というより、われわれにそういう意識があまりなかったのでは？。行政は行政で一生懸命やっていたかもしれないけれど、災害時に利用することまでは考えていないのでしょう。一方我々も活用については気付いていなかった。ですから、使える資料と認識したのなら検討の土台に載せればいいのではありませんか。

**村野**

あれは行政というより民生委員が本当に足で稼いだもので、個人情報保護法が出てからは行政もが情報をくれないにもかかわらず、自分たちにはこれが必要なだと必死でやっていたのですが、それが行政の中で生かされていません。行政はどちらかというと自治会の方の自主防災組織を考えてきたのですが、民生委員さんが実施に訪問して作成したその名簿が地域の中で全然利用されず、生かされていません。

ですから、大分県では自主防災組織と民生委員が持っている情報を出して、本当に使えるのかということで実際に具体的な避難訓練をやろうとしているのですが、それをやるとあまり面白くないのか、行政は乗ってこないのです。ですから、最初に室崎先生からあった「行政とボランティアが平等な立場で」という言葉が私はものすごく引っ掛かっていて、そこが地元ではなかなかうまくいっていません。

**室崎**

兵庫県はNPOの方が、ボランティアの方が行政よりも強い場合がありますから。

**村野**

地元でやっている人たちの力が生かされていないので、非常にもったいないと感じています。

## 澤野

縦割りを超える連携ですね。やはり行政には限界があって、その局同士で話していても、防災課の所管と福祉の所管と。でも、今のような議論が連携の一つの例だと思います。

## 弘中

行政的に見ると、平常時は市レベルでも県レベルでも「防災会議」があつて、そこにトラック協会などの主だった防災関係機関が入っていますので、日ごろから話せる場があるのです。そこにボランティアが入っているかどうかは自治体によって違います。一方、災害時には室崎先生が言われたように「災害対策本部」があつて、行政的にはそこが連携の場になるということは押さえておいてもいいと思います。

それを踏まえて考えると、ここに貼り出されている各団体と事前に話し合う連絡協議会などの話をする場、平常時にいろいろなところに声を掛けて同じ卓に着こうという、そういう場が必要だということは、今お話をお聞きして強く思いました。それには役所も入る必要があつて、ここには縦割りで防災担当課だけですませるのではなく、5～6課ぐらいが一度に来た方がいいと思います。市民活動や福祉の担当課も来て、こんな話をしているということを知った方がいいと思うのです。

## 村野

そうですね。福祉も高齢者福祉課と障害福祉課というようにまた縦割りになっているので、そこはそこでまたきちんとしないといけないと思います。

## 蓮本

ホワイトボードで言うと、発災すれば災害ボランティアセンターということであれば、今の話に出たような協議会的なものが日常あつて、ボランティアや行政、それも各部署という形で作っておかないと、広い連携ができない。一つ一つの構成団体がハブになって網羅するような仕組みを作ることが大事だということを確認するというところで、もうまとめていただいた方がいいのではないのでしょうか。

## 〇まとめ

## 近藤

ありがとうございます。皆さま方に出していただいたキーワードを福田さんがホワイトボードに書いてくれています。これだけ広い範囲のご意見をお出しくださりありがとうございました。やはり肝となっている真ん中の部分は、緊急時、平常時を問わず考えていく必要があり、これが大きな課題だと思います。

**福田**

室崎先生が投げた話でいくと、要にはやはり行政が入った方がいいでしょうか。少なくとも兵庫県の場合はそういう形で。

**澤野**

入り方はいろいろあるけれど、やはり行政がその場にいないと。

**岡野谷**

決定権や采配権がないのですよね。

**澤野**

特に業界団体が絡んでいるので。

**福田**

でも、行政だけではハテナというところがあって、一つは気が利かない。

**澤野**

いや、利く人もいますが。

**福田**

弘中さんがうなずいていたのでそれでいいと思うのですが、あとはやはり縦割りというところが大きいと。ですから、真ん中の要に行政は必須であって、防災課だけでなく、できれば関係ある部署が幾つか入れればいいという話が出てきたということですね。

**近藤**

ありがとうございます。行政との関連性は当然切り離せないものですし、緊急時、平常時を問わず、行政の存在はやはり大きいということは確認できたところだと思います。

**岡野谷**

金は出すけれど口は出さず、責任だけ取ってくれるという行政であれば最高ですね。北区では二者で作成した資料については、行政は口を出すと言っています。でも修正後は三者協定ですからやりやすくなっていると思います。

弘中

災害時には、市や県や役所に「災害対策本部」ができます。そして、一方には「ボランティアセンター」があります。ところが平常時には役所には防災関係機関と話し合う場である防災会議がありますが

澤野

ほとんど形式的ですが。

弘中

少なくともその場はあるということ。ただ、こちらのボランティアセンターの平常時にあたるころには、それがなくてほとんどなので、そこを今後どうするかですね。

澤野

ボランティアだけのネットワークはあるけれど。

宇田川

ボランティアが平常時、防災会議とつながっていないということ。

弘中

平常時もここにたくさん挙げられているように、今の場をもう少し広げていく、団体間や地域をつないでいくことを意識していく必要があるように。

蓮本

その一つ一つがボランティアではなく、ボランティアもいろいろなものがあってという形ではないですか。

福田

弘中さんはもちろんそういうつもりで言っているのだと思います。防災会議はあくまでも防災をテーマにした行政機関の場です。行政機関だけではないのですが、いろいろな業界分野も含めた場です。

澤野

もっと言えば、ボランティアセンターが立ち上がった時期にも幅広い協議会があって、そこにボラン

ティアセンターが存在しないと、センターが孤立するから。方法論を言ってしまいましたが。

#### 近藤

ありがとうございます。市町村社協、県社協、全社協ということで、社協という存在も付箋紙に記入していただいたのですが、加納さんの目から見て気付かれた部分があれば。

#### 加納

結構難しいと思って聞いていたのですが、協議会を誰が担っていくのかという話では、そこには外からこんな支援が入られるという話があると思うのです。そのときに、地元には同じような団体があるというように、そこうまくつなげていかなければいけないので、ニーズが分かっていることと同時に、地元の団体がどんな活動をしていて、今どういう状況にあるのか、多分団体間の関係性もあると思うので、そういうところも分かっているような場でないといけないのだろうと感じました。

#### 近藤

皆さんからご意見をいろいろいただきましたが、せっかくなのでオブザーバーの方からも一言いただけたらと思います。

#### 松野

これだけいろいろな活動があるということで、正直存じ上げない部分が多々ありましたので、日赤のボランティアの担当部署にいる者として大変恥ずかしい思いをしています。要は「被災者のために」というところが災害時の活動では一番重要になると思いますので、いろいろな団体が文字どおり手をつないで連携して、一人でも多くの被災者のお役に立てればと思います。

#### 近藤

ありがとうございました。皆さま方がこれまで培われた広い見識の下に、ワークを完成させることができました。これをたたき台として、また次につなげていきたいと思いますので、よろしくお願ひします。これで分科会を終了します。